

山梨県若者海外留学体験人材育成事業(大学生等コース) 留学結果報告書

2018年3月31日をもって、約7ヶ月半の留学生活が終了しました。昨年8月9日から始まったタイでの生活。私が留学した場所はナコンラチャシーマー県というタイの東北地方(通称イサーン地方)の玄関口となる街です。現地の人たちは、「コラート」と呼んでいます。辛くて塩辛いのが特徴的な料理が多く、気候は他の中では比較的過ごしやすい場所です。初めての海外、初めてのタイ、初めての留学、目の前で起きる全てのことが初めてでした。正直、初めの1ヶ月は毎日泣きそうになる事ばかりでした。タイ語は少ししか分からない上に日本語はもちろん英語もなかなか通じない世界、自分の思っていることをうまく伝えられない辛さをこんなにも味わう事は今までありませんでした。さらに同じ仏教国と言っても全く違う文化で、最初はその違いに戸惑うことも多かったです。本当にあと半年、ここでやっていけるのだろうか不安が積もる日々でした。しかし、時間が経つにつれ生活にもなれ、楽しく過ごせるようになりました。ここからはもう、毎日が楽しくて楽しくて仕方ありませんでした。タイ語は日本語学科の4年生が週三回講座を開いてくれたおかげで日常会話はスムーズにできるようになりました。また、休日や休講の時は積極的にタイの色々な場所へ出かけるようにしていました。バンコクを始めとして、タイ南部、北部、さらに少し足を伸ばしてお隣カンボジアまで行って来ました。タイはお寺が有名ですが、そのお寺も地域によって構造が少しずつ違っていたり、乗り物の種類が違ったり、その土地の郷土料理を食べたりとタイのいろんな一面を肌で感じ、経験することができました。



山梨県若者海外留学体験人材育成事業(大学生等コース) 留学結果報告書

そんな私がこの7ヶ月半で学んだことはタイ語や、タイの文化、生活はもちろん、他の留学生たちとの交流で見た他の留学のあり方、タイ以外の国の文化などたくさんあります。やはり、大学と一緒に授業を受けることで得られる発見が多いと感じました。まず、外見から大きな違いがあり、タイの大学は制服があるんです。まさか20歳になってから制服を着て通学するとは思いませんでした。タイの全てがそうとは言えませんが、クラス別けがあり、日本の高校の授業スタイルのように取る授業がだいたい決まっていたりします。また、文化祭のような学部ごとのイベントがあったりと日本の大学とは違うところがたくさんあり、新鮮でした。タイの学生とランチを共にしたり、一緒に話すことでお互いの文化を共有し、理解し合うことがとても楽しかったです。同年代だからこそ分かり合える部分や、共通の趣味、ファッションなどタイの若者の生活に触れ流ことができました。

寮生活でも多くのことを学びました。ルームメイトはカンボジア人、ベトナム人、タイ人、日本人私の4人でルームシェアをしていました。毎日一緒に晩御飯を食べたりなどはしていませんでしたが、よくベトナムの子が母国の料理を作っては食べさせてくれました。そうして他の国の留学生たちと交流することでまたさらに異文化に触れることができました。ベトナムやカンボジアの留学生は4年間タイで勉強するのですが、私のような交換留学という形ではなく、もうその大学に入学という形で来ていました。留学というよりそこへ進学した感じですね。主にビジネスについて学び、仕事につなげていくようでした。タイは外国人にとって新しいビジネスを始めやすい土地、大学からそのままタイに残ってというのが多いそうです。中国人留学生も多くいて、中華系のお祝いイベントに参加したり、中国の伝統料理を食べたりもしました。タイにいながら、他の国の文化の一部を体験できてまだどこかへ留学してみたいという気持ちが強くなりました。



山梨県若者海外留学体験人材育成事業 (大学生等コース) 留学結果報告書



2ヶ月間タイのフリーペーパーを作っている日本の会社でインターンもさせていただき、大学とはまた違った目線でタイの様々な一面を知ることができました。主にバンコク圏の生活スタイルや文化の面が多かったですが、取材や制作を通してたくさんの方のことを学びました。タイに移住して来た日本人、駐在員の方などタイに魅せられた日本人の方にたくさんお会いすることができ、コラートでなかなか聞けないお話も聞くことができました。タイ人から聞くタイの魅力、日本人から聞くタイの魅力、また一つタイの素敵な一面を知ることができました。

もちろん、デザイナーという面でも学んだことは数え切れないくらいあります。広告の作り方、入稿の様子、レイアウト、特集の組み方など実際の現場を見るだけでも多くのことを吸収しました。実際に自分のデザインしたものが紙面に載った時はとても嬉しかったです。自分の力不足を改めて痛感した一方、やっぱりデザインするの楽しいなと実感した2ヶ月でした。まだまだ足元にも及びませんが、また同じ世界で活躍できるように帰国後も修行を積んで行きたいと思います。

山梨県若者海外留学体験人材育成事業(大学生等コース) 留学結果報告書



留学計画にもあった、山梨のジュエリーについて。中間報告書でもお話ししたとは思いますが、9月にバンコクで開かれたジュエリー展にボランティアとして参加して来ました。興味を持って、立ち止まってお話を聞いてくださったタイ人の方達がたくさんいたことは非常に嬉しかったです。しかし、以前もお話したようにまだまだ若者の関心を買うのは難しい現状です。確かに実際に購入するとなると手の出せないものなのかなと思いました。経済的な問題もありますが、ジュエリーは高級なもの、学生には買えないものというイメージが強くあることも原因だと考えました。もっと身近にジュエリーを感じて欲しいと思いました。私自身、山梨のジュエリーについて取材をするまで、そのようなイメージがあり、遠ざけていました。しかし、ジュエリーにかける職人さんや企業の思いを聞き、もっと広い年代の人に知ってもらいたいと思いました。

また、たまたまインターン中の取材でタイのジュエリーミュージアムに行きました。そこでは、タイのジュエリーの歴史と同時期の世界のジュエリーの歴史を比較した展示や、タイで幸福になると信じられている九つの宝石や、ジュエリーの制作過程の展示など、ジュエリーについて“学ぶ”という面でもとても分かりやすいミュージアムでした。その取材をもとにミュージアムの広告を制作させていただきました。ミュージアム側とのやり取りで、なかなかデザインが決まらず、何度も作り直しました。かなり苦労しましたが、完成させることができてよかったです。そこでもまた、デザイナーの大変さを体感しました。

しかし、ジュエリーの見せ方、広告の作り方について実際の作業を通して深く考えることができよかったです。この経験をこれからの山梨ジュエリーの発信に活かして行きたいと考えています。まずは自分で何かを制作してみて、何か携われることがあれば積極的に参加して行こうと思います。

山梨県若者海外留学体験人材育成事業 (大学生等コース) 留学結果報告書



この 7 ヶ月半、生活するだけでも様々なことを学び、吸収し自分の視野を広げることができました。それができたのも全てタイで出会った方達のおかげです。タイの言葉を知りました。タイの文化を知りました。タイの衣食住を経験しました。それ以上にタイの人々の温かさを知りました。何も知らない私に色々なことを教えてくれて、たくさん笑顔をくれました。マイペンライ!(タイ語で大丈夫、気にしないで)の一言でどんな時も快く助けてくれました。どうしてこんなに優しいんだろうと、優しさに涙してしまいそうに何度もなりました。私は彼らに何かを残してあげられたのだろうか、留學生活中に幾度となく考えました。私も彼らに優しさを返せていたらいいかと、笑顔になってくれたらいいかと。結局それができていたかどうかを確かめたりはできませんが、少しでも日本に興味を持ち、日本を身近に感じていて欲しいです。

まだまだ日本で勉強したいこと、経験したいこと、行ってみたい国などたくさんありますが、きっとこの 7 ヶ月半は一生忘れられないものになりました。生きる力を教えてくれたタイ。次にタイを訪れるのはいつに

山梨県若者海外留学体験人材育成事業(大学生等コース) 留学結果報告書

なるか分かりませんが、その時は一回りもふた回りも成長した姿を見せられたらいいなと思います。そしていつか必ず、私らしい形で恩返しをしたいと思います。

県立大学の先生、県庁の方々、両親、友人、そしてタイで出会った全ての人々に心から感謝します。本当に有難うございました。